

文武躍道

「平成」から「令和」改元となる本年度、平成24年度来県高校総体8連覇の本校は令和元年も勢いそのままに9、更に10連覇と運動系部活動の歴史に記録を刻むと確信する。一方、文化系部活動も華やかであり、県高等学校文化連盟諸活動を先頭に立ち牽引している。さらに、進路実績向上も目覚ましく、特に前年度国公立大学44名合格をはじめとする実績は「新たなコザ高」を印象づけ、「文武躍動」の「今」から「未来」への「道」が鮮明に展望される。

「武」は本校部活動等(全運動系・文化系の生徒活動)を通しての「精神と肉体の鍛錬」が目的で、その成果は県高校総体8連覇や県高文連各大会での活躍に見ることができる。一方「文」は授業をはじめとする様々な学習活動の奮闘努力による「叡智の錬磨」を目指すものであり、近年向上する現役卒業生進路実績はその「実」が裏付けられつつあるものとする。よって「文武」における本校の「躍動」が自ずと実感される。ただ伝統的に高校時代は「楽しむ」ことに力を注ぎ、希望進路実現は卒業後にとの傾向もあった。

事実、「百年に一度の不作」と言われた第34期生である校長のこれまでを振り返っても大きく肯ける。昭和54年本校卒業後に3浪を経験して大学入学、就職浪人、FM局入社、フリーアナウンサーとなり米国横断語学留学、民間より転職、平成3年度教員初任者研修生1期生として球陽高校に採用され、名護高校を経て那覇国際高校創設に携わり、その後読谷高校8年勤務(H21より主幹教諭)、平成23年度から宜野座高校教頭3年間、校長として辺土名高校、読谷高校、与勝緑が丘中学校・与勝高校に勤め、4月に母校奉職となっている。

本校教育目標「公共に志を高くして夢を描き、その実現のため自ら意欲をもって学ぶ知・徳・体の調和のとれた人間育成」は、コザ高生1人ひとりが「今」に生きて「文」「武」に躍動する教育環境そのもので、「文武躍道」には希望進路実現に挑む「轍」が刻まれることとなる。そのあなたの「轍」の刻みを意識させ、「未来への灯」となるのが『進路の手引き』である。高校卒業後の「進路」と対峙し、真剣に「今」を見つめる時、是非とも頁をめくって頂きたい。そして、様々な進路情報に触発され、将来のあなたが目標とする職業への道筋をより具体的に描いて欲しい。

結びに、幕末の日本が世界と対等に渡りあうために力を尽くした勝海舟の言葉をコザ高生の心に届けます。『人はみな、さまざまに長ずるところ、信ずるところを行えばよいのさ。社会は大きいからあらゆるものを包容して毫も不都合はない。生業に貴賤はないけど、生き方に貴賤があるねえ。』

平成31年・令和元年 4月
沖縄県立コザ高等学校
第27代校長 東 盛 敬